

時代を先取りした民俗建築研究

法政大学デザイン工学部教授 陣内秀信

今、近代文明の見直しがさまざまに行われている。その中にあって、気候風土に適合し、環境と共生しながら、地域ごとの特徴ある建築文化を形成してきた民家のあり方は、ますます再評価されてよい。こうした民家の生活文化としての建築を深く探求する「民俗建築」研究は、まさに時代を先取りするものだった。建築学にかぎら

(50音順・敬称略)

雑誌『民俗建築』復刻版を推薦します

戦後の民家研究をリードした 研究誌をここに復刊！

戦後の混乱期、民俗建築会の機関誌として発刊された『民俗建築』には、当初から国内各地の豊富な民家事例をはじめとして、民家に関するさまざまな調査・研究が発表された。そのフィールドは日本国内のみにとどまらず、広くヨーロッパ、アメリカなどにも及び、中国、台湾など日本の周辺諸国を題材とした特集も組まれるなど、活動領域も広がりと深まりを見せていている。本復刻では、創刊号から一〇〇号までを全2回配本で構成した。全国各地の事例報告に加えて、民家紹介や民家に関する研究者による論文、対象地域索引などを収録している。戦後の民家研究の流れを決定的にした本書により、戦後の民家研究を一望することができる。

『民俗建築』復刻版には、建築学はもとより、民族学・地理学・民俗学等々、民家を研究する各分野の研究者が集まり、日本をはじめ世界諸地域でのフィールドワークにもとづいた調査研究報告が集録されている。日本民俗建築学会は、戦前の「民家研究会」の雑誌『民家』の伝統を受けつぎつつ、生活文化として幅広い視野から民家をとりあげたも

う。しかも観察と記述が表面をなでるだけではなく、人間味豊かな民家のよさにまでふみこんでいる。各報告の中から民家をめぐるフィールドの雰囲気をよみとつて頂けると幸いである。

そして海外の膨大かつ貴重な資料・論文を集めめたこの企画は、今後の我が国における豊かな地域文化の再構築をめざす学問と実践にとって、価値ある基本資料となるに違いない。

民家へのあふれる愛情

国立民族博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授
成城大学名誉教授 杉本尚次

が多くの各分野の交流を示す学際研究の成果ともいえる。執筆者たちの民家を見る眼は温かく愛情があふれている。しかも観察と記述が表面をなでるだけではなく、人間味豊かな民家のよさにまでふみこんでいる。各報告の中から民家をめぐるフィールドの雰囲気をよみとつて頂けると幸いである。

貴重な学問的蓄積の継承と発展

成城大学名誉教授 田中宣一

第五九号から第一〇〇号までが編集された時代にどのように継承発展させようと考えておられたのかという熱気が伝わってくる。諸外国の民家の紹介を研究、諸文献の紹介・書評も多い。このような貴重な学問的蓄積が、創刊号からの目次も付して復刻刊行され、多くの人々の共有財産になることは、まさに喜ばしい。

柏書房の関連書籍

写真で見る 民家大事典



日本民俗建築学会 [編]
B5判 504頁 定価 (本体 15,000円+税)
ISBN4-7601-2656-2
日本人の住まいと暮らしを知り、全国各地の民家をたずねる〈写真集+事典〉。環境、景観、構造、生活、文化……あらゆる視点から日本の住生活を映し出す。

オールカラー 世界台所博物館



宮崎玲子 [著]
B5判 218頁 定価 (本体 4,800円+税)
ISBN978-4-7601-3389-5
日本の台所は他の国のものと大きく違う。世界中の台所を回って調べ上げ、食事をしてきた著者が、なぜ台所のスタイルがこれほど違うのかを解明する。

写真集 幻景の東京—大正・昭和の街と住い



藤森照信・初田亨・藤岡洋保 [編著]
A4変形判 338頁 定価 (本体 5,800円+税)
ISBN4-7601-1652-4
半世紀前のモダン都市東京が甦る。近代建築史上、第一級の資料として評価の高い『建築写真類聚』を再編集し、大正・昭和の街と住いを再現。

里山・里海暮らし図鑑



—いまに活かす昭和の知恵
養父志乃夫 [著]
B5判 364頁 定価 (本体 9,500円+税)
ISBN978-4-7601-4118-0
身の丈にあった暮らしのヒントは里山にあった。持続可能な生活を取り戻し、次代につないでいくために、先人に学ぶべき古くて新しい知恵を探る。

アジアの里山・里海暮らし図鑑



—いまに活かす昭和の知恵
養父志乃夫 [著]
B5判 308頁 定価 (本体 11,000円+税)
ISBN978-4-7601-4317-7
かつて日本の里山にあった、持続可能な徹底循環型の暮らし。アジア各地での徹底した取材により、里山の知恵が鮮明に浮かびあがらせる。

いまに伝える 農家のモノ・人の生活館



大館勝治・宮本八恵子 [著]
B5判 344頁 定価 (本体 9,500円+税)
ISBN4-7601-2583-3
民家、里山、野良しごと……明治、大正、昭和と受け継がれてきた、高度成長以前の日本の暮らしを紙上に再現。徹底調査による図版1000点を収録。

◆編集
日本民俗建築学会
◆造本体裁
B5判上製函入
第1回配本：1,326頁
第2回配本：3,552頁
◆定価
第1回配本(第1巻～第3巻)
定価(本体60,000円+税) ISBN4-7601-0324-4
第2回配本(第4巻～第12巻)
定価(本体180,000円+税) ISBN4-7601-1786-5
*各回とも分売不可

第1回配本 1950年～1966年(全3巻)
第2回配本 1967年～1991年(全9巻)

本書の特長

- 日本の民家研究の粹を集めた研究資料・論文群を収録。
- 海外(中国・台湾・韓国・アメリカ・ヨーロッパ諸国など)の事例も幅広く紹介されている。
- 往時の姿を彷彿とさせる図版・写真類を多数掲載。
- 創刊号(一九五〇年六月)より第一〇〇号(一九九一年一月)までを網羅した総目次、執筆者名索引、対象地域索引を新たに作成。
- 民家建築研究のみならず、民俗学、民具学、建築学、家政学、生活学、地理学、文化史など隣接諸科学の研究にも有益。

民俗建築【復刻版】 全2回配本

おすすめ
します

民家研究
建築史
民俗学
民具学
生活学
家政学
地理学
文化史
大学図書館・公共図書館

取扱店

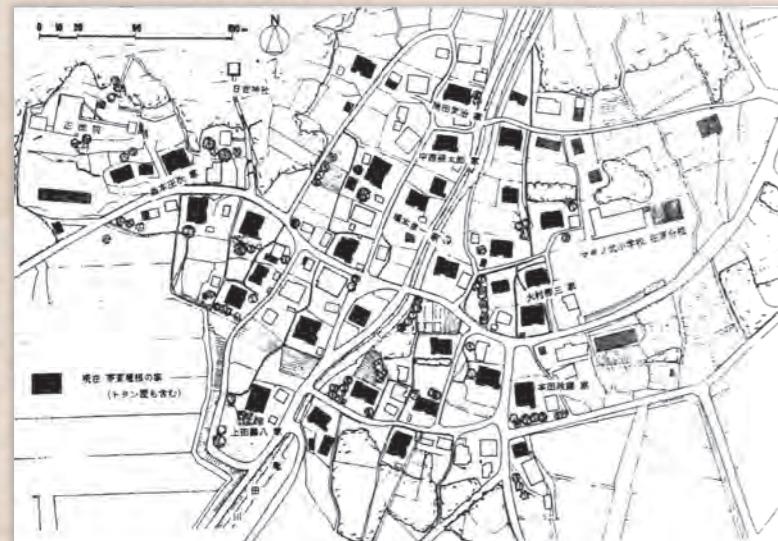
〒113-0033 東京都文京区本郷2-15-13
Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337
URL http://www.kashiwashobo.co.jp
E-mail eigyo@kashiwashobo.co.jp

柏書房

民家の美しさにひかれて— 民衆の生活文化を探求する学際的研究誌



府中市若松町にあった旧河内家住宅【第10巻所収】



滋賀県高島郡マキノ町在原集落の鳥瞰図【第10巻所収】

民俗建築

第89号

対象地域索引

北海道	二戸郡沢村(安代町) 6-273
12-110	——安代町 6-273
田村 12-242	岩手県 9-153
4-293, 9-153, 12-213	宮城県
青森県	石巻市 12-120
石地方) 10-104, 11-80,	角田市 12-121
245, 7-229	仙台市 12-120
代村(弘前市) 1-245	牡鹿郡大原村(牡鹿町) 1-167
浦町 4-281	遠田郡小牛田町 4-115
日寺村(田舎館村)	加美郡宮崎町 6-211
村 11-82	——小野田町 6-211
3-873	刈田郡七ヶ宿町 3-887
10-104	柴田郡田村町 12-43
10-104	栗原郡金成町 10-116
伊具郡丸森町 12-120	宮城郡松島町 1-245
秋田県	伊具郡丸森町 6-40
秋田市 2-575, 3-887	会津若松市 6-223, 12-56
鹿角市 9-82	いわき市 12-43
仙北郡 12-182	喜多方市 4-45, 9-230, 12-56
104	郡山市 6-40
2-845, 3-977,	福島市 3-1061, 9-164
104	二本松町(木曾松市) 2-657
2-845, 3-887,	大沼郡金山町 6-40, 7-267
町) 2-679	河沼郡高郷村(耶麻郡高郷村) 6-40
7	伊達郡伊達町 9-164
3-977	——梁川町 6-40
77	——盡山町 3-1061
17, 3-977	田村郡船岡町 6-40
2-617	——都路町 3-1061
2-679	西白河郡矢吹町 3-1061, 5-40
尾花沢市 5-265	東白川郡般若町 3-1061
寒河江市 3-873	双葉郡津島村(渡辺町) 3-1061
鶴岡市 4-159, 10-104	——鎌岩町 10-104
村山市 6-53	——下郷町 12-56
山形市 3-1291, 4-169, 6-273	耶麻郡高郷村 6-40
米沢市 6-53, 7-92	——山都町 12-56
鮫島郡般若寺村(八幡町) 1-245	会津地方 7-92
西置賜郡白鷹町 3-1249, 6-53	中通り地方 6-40
西村山郡朝日町 3-1075	福島県 3-1049
——大江町 6-175	茨城県
西川町 6-175	つくば市 6-223
西田川郡温海町 5-257	猿島郡五霞村(五霞町) 3-867
最上郡真室川町 5-265	多賀郡山小川 1-797
東置賜郡西町 2-645	筑波郡筑波町(つくば市) 6-223
——高畠町 5-265	那珂郡那珂町 6-223
東田川郡朝日村 1-147, 3-873,	茨城県 3-887, 3-1049
3-887, 10-104	今市市 1-309
73	上都賀郡今市町(今市市) 1-309

日本民俗建築学会
THE JAPAN INSTITUTE OF FOLK HOUSE

日本に限らず、世界各地の民家事例なども紹介され、特集なども組まれている。

創刊号から100号までの総目次に加えて、利用者の便を考えた対象地域索引、執筆者名索引を新たに作成した



佐原をモデルとして復元された房総の町並み(千葉県立房総のむら博物館) 口永良部島の民家・日高家【第11巻所収】
【第11巻所収】

向井潤吉画伯らによる民家の扉絵がほぼ毎号にわたって掲載されている【第10巻所収】



全巻構成

《第1回配本》

- 第1巻 1号(1950年6月)～17・18合併号(1956年9月)
第2巻 19・20合併号(1957年12月)～35号(1961年8月)
第3巻 36・37合併号(1962年2月)～57・58号(1966年9月)

《第2回配本》

- 第4巻 59号(1967年2月)～66号(1972年12月)
第5巻 67号(1973年12月)～70号(1975年12月)
第6巻 71号(1976年5月)～74号(1977年12月)
第7巻 75号(1978年6月)～80号(1981年5月)
第8巻 81号(1982年4月)～85号(1984年6月)
第9巻 86号(1985年1月)～90号(1986年11月)
第10巻 91号(1987年5月)～94号(1988年11月)
第11巻 95号(1989年5月)～98号(1990年11月)
第12巻 99号(1991年5月)～100号(1991年11月)

総目次／執筆者名索引／対象地域索引

日本民俗建築学会について

大正時代に『日本の民家』を著した今和次郎。1933(昭和8)年に大熊喜邦が会長となり組織された「民家研究会」の機関誌として、1936(昭和11)年から8年間にわたり刊行された『民家』。

そうした先駆の影響を受けて、1950(昭和25)年に『日本農民建築』の著者であった石原憲治らによって「民俗建築会」が結成され、その機関誌として『民俗建築』が発刊された。当時の顧問としては柳田國男・渋沢敬三・小倉強・今和次郎・田辺泰・藤島亥治郎といった著名研究者らが名をつらねた。

初代会長の石原憲治は創刊号において、「時代の文化を支えている民衆の生活文化としての建築がどのようにであったかを探求すること」が民俗建築研究の責務であるとその理念を示し、本誌上には国内外を問わず各地の民家報告が集まつた。

戦後の新たな民家研究の方向をリードしてきた民俗建築学会は、「民俗建築学会」、そして「日本民俗建築学会」と改称を経たのちも、多彩な研究者たちが集い、その領域は建築学に限らず、民俗学、生活学、家政学、地理学などの広範囲にわたり現在に及んでいる。